NIEしもつけ ワークシート ㉞

中学生向け

年　組

とちぎ発　災害ごみ

教訓生かし平時に備えを

甚大な被害をもたらした昨年の台風19号の直撃で課題となった一つが、大量に発生した災害ごみだ。1年たった今も、県内ではまだ処理完了に至っていない。

近年、地震や台風など自然災害が多発し、いつまた同じような被害に見舞われてもおかしくない。災害ごみの処理は一般ごみと同様、市町の役割である。発生してから対応を考えていたのでは遅い。適正かつ円滑、迅速に処理して一日も早い復旧復興につなげるため、市町は台風19号の教訓を生かし、平時からの備えに万全を期したい。

台風19号で発生した県内の災害ごみは、公費解体を除き約5万トン。これは足利市や栃木市で1年間に排出される一般ごみの量に匹敵する。

水害では水が引いた途端、ぬれた畳や家具といった災害ごみが搬出される。仮置き場の設置が遅れたり十分周知できなかったりすると、道路や空き地に山積みされる「勝手仮置き場」が各地にでき、分別もされない。県内のごみ処理費は公費解体などを含め約90億円と見込まれるが、こうした対応の遅れが手間や費用を膨らませる一因になる。

処理の基本となるのが災害廃棄物処理計画だ。仮置き場の事前のリストアップや発生時のごみ処理の流れなどを盛り込んだもので、国は2025年度の市町の策定率60%を目標に掲げており、県内ではすでに11市町が策定した。残る市町も急ぎたい。

計画ができても安心とは言えない。広域災害時に市町の枠を超えた支援の調整をする立場にある県は、19号の発生より前に計画を作ったが、どのタイミングに誰がどこに連絡するなど細かい事項は決めておらず、初動などに課題が残った。

その反省を踏まえ県は6月、県としての対応を時系列でまとめたマニュアルを作成した。各市町も、マニュアルの作成や災害を想定した訓練を重ねるなどして計画を実効あるものにするべきだ。

ごみ処理は分別の徹底が早期完了の鍵を握る。緊急時とはいえ、分別せず出してはいけないことを平時から住民に伝えるべきだろう。発生時の効果的な周知の在り方や仮置き場内のレイアウトなども考えておく必要がある。

災害ボランティアに情報をいかに早く伝えるかも検討したい。それらが整って初めて、災害に強いまちと呼べる。

（2020年10月24日付・下野新聞７面）

設　問

【１】災害ごみとはどのようなごみでしょうか。文章から見つけたり考えたりしましょう。

【２】国は災害廃棄物処理計画の目標を「2025年度で市町の策定率60%」としており、県内では11市町が策定しています。栃木県には25市町ありますが、現在は何%の策定率でしょうか。

【３】災害ごみに対して平時から備えることが書かれていますが、市町が行うこととしてはどんなことが紹介されていますか。文章からまとめましょう。

【４】災害ごみに対して、あなたの学校や家庭ではどんなことが平時からの備えとしてできますか。

出題・監修は県中学校教育研究会社会部会・芳賀智一（はがともかず）日光市湯西川中学校長